



生徒エージェンシー^(※)を「共育」する秋に

校長 田邊 雅也

10月10日は「目の愛護デー」

10月10日は「目の愛護デー」です。「10・10」を横にして見ると、人の目と眉に見えるからです。1931年に目の愛護デーの前身となる「視力保存デー」が、中央盲人福祉協会によって定められました。戦前、衛生状態に問題があり、失明予防運動の一環として行われたことがきっかけでした。現在は「目の愛護デー」として、厚生労働省などで、目の健康に関する運動やイベントを催しています。現在の問題は、「子どものIT眼症」です。これは、テレビゲーム、パソコン、スマートフォンなど、様々な情報機器（IT機器）を長時間、あるいは不適切に使用することによって生じる、近視、目の病気、それに伴って発症する全身症状のことです。

保健委員会によるウェルビーイングを目指した活動

5・6年生が活動している保健委員会では、六小の子供たちの「目の健康」を守る活動をさらに展開したい、という願いがありました。全校児童へ向けて、何か提案できることはないだろうか、という「問い」があったのです。月に1回程度の限られた時間の中での活動時間ですが、この10月、保健委員会の子供たちから、全校児童が「目の健康」について、自分ごととして考えてほしい、という啓発活動を行います。自分たちの目を自分たちで守りたい、という「問い」から生まれるオーセンティック（本物）な活動で、かつ、全校児童の目の健康を考えたウェルビーイング（幸せ）のある活動と言えます。

きっかけは、眼科医さん（保護者）による動画

実は、これにはきっかけがありました。眼科医として勤務されている保護者の方が、子供たち向けに、目の健康を守るための動画を自作し、提供してくださったのです。医学的な知識を裏付けとし、子供でも理解できるわかりやすい構成になっています。「近視はどういう仕組みなの？」「近視になるとどんな危険性があるの？」「年齢を重ねていくとどうなるの？」「予防するために日頃から何をしたらいいの？」など、小学生にも問題意識を抱かせる内容です。しかも、「はじめ、なか、おわり」の構成で、国語の学びとも連動できそうです。編集の上でも非常に参考になります。10月中旬過ぎ、保護者の皆さんにも、限定公開YouTubeで公開予定です。

生徒エージェンシー（Student Agency）を育む

保健委員会の活動のように、何か探究したり、課題を解決したり、変革を起こしたりするには、Anticipation（自分で問いを立て、見通す）、Action（自分で学び、行動する）、Reflection（振り返る）という「AARサイクル」で学びます。これは、「生徒エージェンシー（Student Agency）」を育てていく教育で、「何か変革を起こすために、目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力」と定義づけられています。自分、仲間、社会のウェルビーイングに向かって、自らを方向づけ、よりよい社会の創り手となって、幸福な人生を創り上げよう、という考え方は、全国の学校で、こうした「生徒エージェンシー」を育むことが求められています。

地域と「共育」できる秋

2学期が始まって1か月が過ぎました。さくら学級は農家さんとの連携して育てた野菜に関するプレゼン制作、1、2年生は大勢の保護者の協力による公園での虫とりや町への探検、3年生は地域団体との連携した体育発表会での「よさこい」の練習、4年生は地元ボランティアさんと連携した黒目川の探究、5年生はにんじん農家さんとの連携した探究、6年生はNPO法人メイあさかセンターと連携したキャリア教育・国際理解教育などです。地域の教育力を活かし、オーセンティック（本物）で、ウェルビーイング（幸せ）のある教育活動を目指した試行錯誤は、続いています。「生徒エージェンシー」を「共育」する秋になりそうです。本校のFacebookでは、その教育活動の様子を紹介していますので、ご覧ください。ぜひ、地域の教育人材として、ご参加いただけたら、幸いです。今後ともよろしくお祈りします。

※生徒エージェンシー（Student Agency）

…世界38カ国が加盟するOECD（経済協力開発機構）が、2019年に出した「OECD Learning Compass2030（学びの羅針盤）」の中心的な概念です。「変革を起こすために、目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」と定義されています。先の読めない環境の中でも、自力で進むべき方向を見つける力を身に付けてほしい、という願いが込められています。友達、教師、保護者・地域など、様々な方の力を借りながら、最後まで責任をもって目標を達成することも意味しています。